

Title	京都大学文学部国語学国文学研究室蔵『仮名日本紀』翻刻
Sub Title	Transcript of the Kana Nihongi in the department of Japanese language literature, faculty of letters, Kyoto university
Author	川上, 新一郎(Kawakami, Shinichiro)
Publisher	慶應義塾大学附属研究所斯道文庫
Publication year	2000
Jtitle	斯道文庫論集 (Bulletin of the Shidô Bunko Institute). No.35 (2000. ) ,p.431- 459
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	資料紹介
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00106199-00000035-0431">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00106199-00000035-0431</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

京都大学文学部  
国語学国文学  
研究室蔵  
『仮名日本紀』翻刻

川上新一郎

本稿は、京都大学文学部国語学国文学研究室蔵『仮名日本紀』（存卷一―八、「大正」写一冊、国文学―CcII―二）を翻刻したものである。本書は顕昭『日本紀歌注』の零本と考えられる。詳細は拙著『六条藤家歌学の研究』（平11刊）所収の解題（906頁以下）を参照されたい。

凡例

翻刻に際し以下の措置を施した。

- 一、漢字、仮名ともに原則として通行の字体に改めた。
- 一、漢字、仮名ともに誤写もしくは不分明な字体が散見されるが、底本が近代の写本であることに鑑み、むかえて読んだ場

合がある（ヌとメ、チとテ、レとシとの区別等）。また、右傍括弧内に私の改訂案を示した場合もある。

- 一、意味不通の箇所には（ママ）を付したが、当時通行の誤訓や慣用表記と思われるものもある。後考を俟つ。
- 一、底本には若干句読点が存するが、今必ずしも従わず、読解の便を考え私に施した。
- 一、字体の大小、字下げ等を整理し統一した。著しい場合は注記した。

仮名日本紀零本（後補外題）

仮名日本紀自第一至第四（外題）

ケンア（梵字）

日本書紀卷第一

神代上

イニシヘニアメツチイマタワカレスメヲワカレサル時ニ、マロカレタル事トリノ子ノコトクシテ、クラケナスタ、ヨヒテアシカヒヲフクメリ、其スミアキラカナルモノハタナヒカスミナヒキテアメトナル、オモクニコレル物ハツ、キテツチトナル、カ、レハアメサキニナリテツチ後ニサタマル、シカアテ後ニ神

其ナカニアレマス、アメツチヒラクルハシメニクニツチノウカヒタ、ヨヘルコト、タトヘハアソフウヲノ水ノ上ニウケルカ如シ、時ニアメツチノナカニヒトツノモノナレリ、カタチアシカヒノ如シ、スナハチ神トナル、クニノトコタチノミコト、名ツク、ツキニクニノサツチノミコト、ツキニトヨクムヌノミコト、スヘテミハシラノ神マス、アメノミチヒトリナル、コノユヘヲトコノカキリナル、ツキニカミイマス、ウイチニノミコト、スヒチニノミコト、ツキニカミマス、オホトノチノミコト、オホトマヘノミコト、次ニカミマス、オモタルノミコト、カシコネノミコト、次ニ神マス、イサナキノミコト、イサナミノミコト、スヘテヤハシラノ神マス、アメツチノミチアヒマシハリテナス、（ラカ）コノナトコラムナヲナセリ、  
一書ニイハク、コノ二フタハシラノアシママ、カミカ神ハアラカシキネノミコト也  
イサナキイサナミノミコトアマノウキハシノウヘニタ、シテ共ニハカラヒテイハク、シタツソコニアニクニナケンヤ、トイヒテスナハチアマノヌホコヲモチテサシヲロシテカキサク、コ、ニアヲウナハラヲエテ、ソノミホコノサキヨリシタ、ルホコノヒトツノ嶋ニナル、ナツケテヲノコ口嶋ト云、（マゴ）フタハシノ神コ、ニカノ嶋ニアマクタリマシテヨリ、ミトノマクハヒテ八ノクニ

ツチヲウマントス、スナハチヲノコロ嶋ヲモテクニノナカノミ  
ハシラトス、シカウシテ、ヲカミハ左ヨリメクリ、メカミハ右  
ヨリメクリテ、クニノミハシラヲワケメクリテ、ヲナシクヒト  
ツヲモテニアフタマウ、時ニメ神マツ唱テイハク、アナウレシ、  
エヤウマシヲトコニアヒヌ、ヲ神ヨロヒスシテノタマハク、ワ  
レハ是マ斯拉ヲ也、コトハリマツ唱ヘシ、イカソタヲヤメノカ  
ヘリテコトサイタツルヤ、コトステニサカナシ、ヨロ□クモテ  
アラタムメ、クル、爰ニハシラノ神カヘリテサラニアヒアフ、  
コノタヒハヲ神マツ唱テイハク、アナウレシ、ウマシヲトメニ  
アヒヌ、ヨテメカミ問テイハク、イマシカミニナニナルコト  
カアル、答テイハク、我身ニヒトツノメノハヒメトイフトコロ  
アリ、ヲカミノタマハク、我身ニマタヲノハシメトイフトコロ  
アリ、我身ノハシメノトコロヲモテイマシカミノハシメノトコ  
ロニアハセントヲモフ、コ、ニメヲハシメテアフテミトノマク  
ハヒス、コウム時ニヲヨテマツアワチノ嶋ヲモテエトス、心ニ  
ヨロヒサル所アリ、カルカユエニコレヲ名ツケテアハチノ嶋ト  
イフ、則大和トヨアキシマヲウム、次ニイヨノフタナノシマヲ  
ウム、次ニツクシノシマヲウム、次ニフタコニオ。ノシマ、サ  
トノ嶋ヲウム、ヨヒトアルイハ二子ヲウムコトハコレニカタト

リテナリ、次ニコシノ嶋ヲウム、次ニ大嶋ヲウム、次ニキヒノ  
コシマヲウム、コレニヨテハシメテオホヤシマノクニノナヲコ  
レリ、スナハチツシマノ嶋、ユキノシマヲヨヒ所ノコシマ  
ハ、ミナコレシホノアワノコリテナレルナリ、マタハ水ノアワ  
ノコリテナルトモイフ、次ニヤマヲウム、次ニ河ヲウム、次ニ  
ウナハラ、キノヲヤク、ノチヲウム、次ニクサノオヤカヤノヒ  
メヲウム、又ハノツチトナツク、ステニシテキサナキノミコト  
イサナミノミコト共ニハカリテ云ク、ステニオホヤシマノ国ヲ  
ヨヒ山河草木ヲウミツ、イカソアメノシタノキミタルヘキモノ  
ヲウマサランヤ、爰トモ二日ノ神ヲ生、オホヒルメノムチト申  
一書ニイハク、アマテル大神、一書云、アマテルオホヒルメ  
ノムチ  
コノミコヒカリウルシクシテクニノウチニテラシトホル、カレ  
ニハシラノ神ヨロコヒテイワク、アカコサハナリトイヘトモイ  
マタカクイツシヒニアヤシキミコハアラス、ヒサシクト、メマ  
ツルニヨロシカラス、ミツカラニマサニハヤクアメニオクリマ  
タシタテマツリテ、サツクルニアメノコトヲモテス、コノ時ニ  
アメツチアヒサレルコトイマタトヲカラス、カルカ故ニアメノ  
ミハシラヲモテアメニヲクリアク、次ニ月ヨミノミコトヲウム

一書ニイハク、月ユミノミコト、月夜見ノ御子ト、月読ノミコト

其ヒカリウルハシキコト日ニツケリ、モテ日ニナラヘテヲサムヘシ、カルカ故マタアメニヨクリマツルヘシ、次ニヒルコヲウム、ステニミトセニナルマテ足ナヲタ、ス、カルカ故、コレヲアメノイハクスフネニノセテ風ノマニノハナチスツ、次ニソサノヲノミコトヲウム

一書イハク、神素戔嗚尊、速素戔嗚尊

<sup>①</sup>スサノヲノミコト、コノイサナ<sup>(マ)</sup>ミタケクシテイフリナルコトヲモテス、カツハツネニナキイサツルヲモテワサトス、カルカユエニ、クニノウチノヒトクサヲシテ、オホクモテアカラサマニシナシム、又アヲ山ヲカラ山ニナス、カルカユヘ、ソノカソイロハノフタハシラノ神、スサノヲノミコトニミコトノリシタマウ、イマシハナハタアチキナシ、モテアメノシタニキミタルヘカラス、マコトニマサコト<sup>(マ)</sup>ヲクネツクニ、イネ、トノヘタマイテツギニヤラヒキ

此ノチニ、スサノヲノミコトノシワサハナハタアチキナシ、イカニトナラハ、アマテルヲホカミアマノサタ、ナカタヲモテミタトシマシマス、時ニスサノヲノミコト、ハルハスナハチシキ

マキニ、マタアハナチス、アキハスナハチアマノフチコマヲハナチテタナカニフス、マタ天照太神ノニハナヒキコシメサントスル時ニ、即ヒソカニニハナヒノミヤニクソマル、マタ天照太神ノマサニカンミソヲリツ、イムハタトノニマシマスヲミテ、即アマノフチコマヲサカハキテオホトノイラカヲウカチテナケヲサム、天照太神オトロキテ給テ、カヒヲモチテミミヲイタミ給ツ、コレニヨリテイカリナシテ、スナハチアマノイハ屋ニマシテイハトヲサシテカクレマス、カルカユヘニ国ノウチトコヤミニシテヒルヨルノカハルワサシラス、時ニヤソヨロツノ神ヲチアメノヤスノカハラニツトギテソノイノルヘキサマヲハカラフ、カルカ故ニオモヒカネノ神ヲカキハカリ事トヲクタハカリテ、ツギニトコヨノナカナキノトリヲアツメテタカヒニナカナキセシム、又タチカラヲノ神ヲモチテイワ戸ノワキニカクレテ、ナカトミノムラレ<sup>(シ)</sup>ノトヲツラヤアマノコヤノミコト、イムフノトヲツオヤフトタマノミコト、アマノカコ山ノイヲツ、ノマサカキヲネコシニコシテ、カムエニヤサカニノイヲツ、ノミスマルヲトリツケ、ナカツエニハヤタノカ、ミヲトリ

一云、マフツノカ、ミシモツエニハアヲニキテ、シラニキテヲトリシテ、アヒトモニ

祈マツル、又サルメノキミノトヲツヤアマノウスメノミコト  
スナハチ〔手〕ニチマキノホコヲモチテ岩屋ノ前ニタ、シテ、  
タクミニワサヲキス、又アマノカコ山ノマサカキヲモチカツラ  
ニシ、ヒカケヲモテタスキニシテ、ホトコロヤキ、ウケフセフ  
ミト、ロカシテカムカ、リス、コノ時ニ天照太神是ヲ聞テイハ  
ク、我コノ比イハ屋ニコモリキス、オモフニトヨアシ原ノナカ  
ツ国ハカラストコヤミユ克蘭、イカソアマノウスメノミコト  
カノエラクハヤトノタウト、スナハチミテヲモチテ岩戸ヲホソメ  
ニアケテミソナハス、時ニマタチカラヲノ神スナハチ天照太神  
ノ御手ヲ給テ引イタシタテマツル、コ、ニナカトミノカミ、イ  
ムヘノ神スナハチシリクヘナハヲ引ワタシテハチ申テイハク、  
マタナ婦マシソ、シカウシテ後ニ神タツツミヲスサノヲノミコ  
トニヨセテ、ハラフニチクラヲキトヲモテツキニセメハタル、  
ツカヒニ神ヲヌキテモテソノツミヲアカフ、又イワク、其手足  
ノツメラヌキテアカフ、ステニカムヤラヒヤリキ、此時ニスサ  
ノヲノミコトアメヨリイツモノ国ノヒノ河カミニクタリマス、  
時ニ河ホトリニネナク声アルヲキコシメス、カルカ故声ヲタツ  
ネテマキイテマシ、カハ、ヒトリノヲキナラムナアリテ、ナカ  
ニヒトリノヲトメヲスヘテカヒナテツ、ナク、スサノヲノミコ

ト問テイハク、イマシタチハタレソ、ナソカクナクヤ、答テ曰、  
ヤツカレハコレ国ツ神也、名ハアナツチ、ワカツマノ名ハテナ  
ツチ、コノヲトメハ是ヤツカレカ子也、名ハクシイナタヒメ、  
鳴ユヘハ、サキニヤツカレカ八ノヲトメアリキ、年コトニ八マ  
タノヲロチノ為ニノマレニキ、イマコノ乙女ノマレナントス、  
マカル、ニヨシナシ、故ニモテイタムト申、素戔嗚尊ミコトノ  
リシテイワク、若シカラハ、イマシマサニムスメヲモチ吾ニク  
レンヤ、トノタマフ、答テイワク、ミコトノリノマニノ奉ラ  
ン、カルカユヘニ、スサノヲノミコトタチカラ奇稻田姫ヲユツ  
ノツマクシニトリナシテミツラニサシ給ツ、スナハチアシナツ  
チ、テナツチヲシテ八シホリノミキヲカマシメテ、ヒトツノ  
サカ舟ナラヘテサスキヤマヲユヒテ、ヲノ一槽ヲ、キ  
テ、ミキヲモリテモテマタシム、其時ニイタリテハタシテヲロ  
チアリ、カシヲヲノ八マタアリ、眼ハアカカ、チノ如シ、  
松カエセナカノ上ニヲヒテ八ヲカ八谷ノ間ニハヒワレリ、ミキ  
ヲノメルニイタリテ、カシヲヲノヒトツノサカフネニヲト  
シイレテサケヲノミテネフル、時ニスサノ尊スナハチハカセル  
十束ノ劔ヲヌキテツタノニ其ヲロチヲ切ツ、ヲニイタリテ劔  
ノハスコシカケヌ、カルカ故ニソノヲ、サイテミソナハセハナ

カニヒトツノ劔アリ、是イハル草ナキノ劔也

一書云、モトノ名ハアメノムラ雲ノツルキ、盖ヲロチノヲル  
上ニツネニクモリアリ、カルカユエニモテ名也、ヤマトタケ  
ノミコトニ玉テ名ヲアラタメテ草ナキノ劔ト云

素戔嗚尊ノイハク、コレアヤシキ劔ナリ、吾イカソワタクシニ  
ハヲケランヤ、トノタマイテ、アメノ神ノミモトニタテマツリ  
アク、シカウシテ後、ミアハシセントコロヲユク／＼マク、ツ  
ヒニイツモノスカミイタリマス、スナハチイテイハク、吾心ス  
カ／＼シ、即ソコニミヤヲタツ

或曰、時武素戔嗚尊歌之曰

夜句茂多菟伊弩毛夜霸餓岐菟磨語昧尔夜霸餓枳都俱盧贈廻夜  
霸餓枳廻

ヤ雲タツ イツモヤヘカキ ツマコメニ ヤヘカキツクル

ソノヤヘカキヲ

スナハチクニトモニミトノマクハヒシテオホアナムチノ神ヲウ  
ム、ヨテミコトノリシテイハク、吾コノミヤノツカサハスナハ  
チアシナツチ、テナツチ也、カルカユエナヲ二ハシラノ神ニタ  
マイテイワク、イナタミヤシノ神、ステニスサノヲノミコトツ  
中ニネツクニマカリシリソキヌ

顯照法師注云、コノ素戔嗚尊ノウヘタハ日本紀ノ注ニモミエ  
タル事ハヘラス、古今真名序ニイワク、神代七代時質人停情  
欲無分和哥未作逮于素戔嗚尊到出雲国始有三十一字之詠今反  
哥之作也云々

又同序ニ四条重相公任卿ノ注ニイハク、素戔嗚尊欲婚奇稻田  
姫達宮時見其地八色雲起所詠也云々

但私案云、五色雲タツト申本文モ侍ハ八雲タツコトモ侍ナム、  
此スサノヲノミコトナラヒニイナタヒメカコトニハ八ノコト  
オホク書ノセタリ、ヲトメカヲロチニノマレタリシ数ヲ申ニ  
ハ、八箇ノヲトメ有キトイヘリ、又ヤマトノヲロチトイヘリ、  
ヲカシラヲノ／＼八ト云ヘリ、又ヤシヲ、リノミキトカケリ、  
又サスキヲツクルコトモ八マトイヘリ、又ヲロチモ八ヲカハ  
タニヲハヒワタルトアリ、又ヤヘカキモタヨリアリ、又サカ  
フネモ八アリ、サレハ瑞雲ニモ八イロノ雲ノタ、ムコトモタ  
ヨリアリ、又何事ニモ世間ノ事ニハハアル事ホオシ、或八タ  
ノカ、ミ、ヤスミ、ヤシマ、ヤサカニナトモイヘリ、又ヤヘ  
カキハ常事也、アシノヤヘカキ、ヤヘ山、ヤヘクモ、ヤクラ、  
又イツモト侍ハカノ時八。雲ノ立タルヲ、クモ出ト立トハオ  
ナシ心ナレハ、ヤカテカノ国ノ名ニツケハシメタルニコソ、

紅ノヤシホノ又物ノカスノ多カルヲ八ト申ハ陰ノキハメニシテ、八トイヒ、八十トイヒ、八万トイヒ、八千トイヒ、八百万ト申常ノ事ナリ、八ソウチ、八ヲカ、八千代ナトモヨミナラハセリ

八ツニミタヌヲモ、八ニスキタルヲモ、八ヘキク、八ヘ山フキナト申侍、ムクラナトハオホクシケリヌレハヲサヘテ、八重ムクラト申ナラハシセリ、八声ノ鳥、又ツマコトハ、ツマトハメヲトコタカヒニ申コトナル、コツキテイナタヒメトスミタマハムスレハ、メヲコムル心也、下ノ二句ハニヤヘカキツクルソノ八重カキツクルトオシカヘシテオナシ詞ヲヨムハ古哥ノサタマレル事也、此哥三十五文字ミソモシアマリ一モシノ哥ノハシメニテメツラシキウヘニ、又フルキ物ニモソノ心シルシツケネハ、ヲシアテニヤハラケ申侍ナリ、又スサノヲノミコト、ソサノヲノミコトハ、タ、ヲナシ五音ニテカヨヒテ侍レハフタツノヤウニカナニモツケラレテ日本紀ニモ侍ト、ツネニハスサノヲトソ、フミニモカキ先達モ申侍シ、又湯津爪櫛トカケリ、師説ニハ其形如爪也トアレト、義ハヤウノナレハ妻ト申サムニモ不遠歟

## 日本紀第二

### 神代下

同卷注云、アマテルオホム神アメワカヒコニミコトノリシテ。ハク、トヨアシハラノナカツクニハコレワカコノキミタルヘキ国也、シカルニチハヤフルアレキ神アリ、カルカ故ニイマシマツユキテムケヨ、トノタマイテ、アマノカコ弓ヲヨヒアマノマカコヤ

本書ニハアマノ羽ハと矢ヤ

給テツカハス、アメワカヒコミコトノリヲウケテキタリクタリテ、サハニアマキクニタマノムスメシタテルヒメヲメトシテ八トセニナルマテニ返事マウサス、カルカ故アマテルオホカミスナハチオモカネノ神ヲメシテソノマウコサルカタチヲ問給、トキニオモキカネノ神ヨロシクキシヲツカハシテ是ヲトフ、爰カノ神ノハカリ事ニシタカイテ雉ヲツカワシテコレヲウカ、ハシム、其雉トヒ。タリテ、アメワカヒコカ門ノ前ノユツカツラノ木ノスエニキテナキテ云ク、ナテユヘ八年ニナルマテニイマタ返事マウサヌ、トキニ、クニノ神アマノサクメ其雉ヲミテイワク、ネナキアレキトリコノ木ノスエニアリ、コレヲイルヘシ、スナ



ハチアメノカミノ給シアマノカコ弓(マ)ヤマノカコヤヲトリテコレ  
 ライル、其矢雉ノムネヲトリテアメノ神ノミモトニイタリヌ、  
 時ニアメノ神其矢ヲミソナハシテ、コレムカシ我タマイシ矢ナ  
 リ、矢ニチヌレタリ、トテトリテネキテナケクタス、其矢クタ  
 リテアメワカヒコノタカムナサキニアタリテシヌ、カヘシ矢ヲ  
 イムヘキ縁ナリ、時ニアメワカメコアメヨリクタリテキタリ、  
 ヒツキヲモテユイテ、アメニシモヤツクリテモカリシナク、  
 コレヨリサキニアメワカヒコ、アチスキタカシ(マ)コネノ神ト、モ  
 カキウ(マ)ワシ、カルカ故アチスキノタカヒコネノ神アメニホリ  
 テ、モヲトフラヒテオホキニナク、時ニカミノカタチヲノツカ  
 ラニ、アメワカヒコトヒトシクアヒニタリ、カルカ故ニアメワ  
 カヒコカメ子ミテヨロコヒテ云ク、吾君ハシナス、ナヲシマシ  
 ン(マ)シケリ、スナハチコロモヲヒニトリカ、リテ、ヲシハナツ  
 ヘカラス、時ニアチスキタカヒ(マ)ネノ神イカリテ云ク、トモニウ  
 セニタリ、カルカユヘワレスナハチキタリトフラフ、イカソシ  
 ヌル人ヲワレニアヤマツヤ、トテ即トツカノ劔ヲヌキテモヤヲ  
 切タヲシツ、其ヤヲチテ山トナル、是即美濃国ノモ山是ナリ、  
 ヨノ人シニタルモノヲモテヲレニアヤマツヲニクムハ是ソノ故  
 ナリ、時ニアチスキタカヒコネノ神テリウルハシウシテ、フタ

ヲカウ(マ)タニ、ノアヒタニテリカ、ヤケリ、カルカ故ニ、モニツ  
 トヘル人哥ヨミシテイハク、或云、コレアケスキタカヒコネノ  
 神ノイロトシタテルヒメ、ヲカタニニテテリカ、ヤクモノハ、  
 コレアチスキタカヒコネノ神トシラシメムト思故ニウタヨミシ  
 テイワク

阿妹奈屢夜乙登多奈婆多廼汗奈餓勢屢多磨廼弥素磨屢廼阿奈  
 陀磨波夜弥多尔輔陀和邏須阿泥素企多伽避顧祢

アメナルヤ ヲトタナハタノ ウナカセル タマノミスマル  
 ノ アナタマハヤ ミタニフタワタラス アチスキタカヒコ  
 ネ

阿磨佐筒屢避奈菟謎廼以和多邏素西渡以嗣筒播筒枪輔智筒多  
 輔智尔阿弥播利和枪嗣妹慮豫嗣尔豫嗣預利扱祢以嗣筒播枪輔  
 智

アマサカル ヒナツケノ イワタラソセト イシカハカタフ  
 チ(マ) タカフチニ アミハカリワタシ メロヨシ(マ)ミ ヨシヨリ  
 コネ イシカハカタフチ

此フタウタハイマノナ夷曲

頭照法師注云、コノ二首ノウチサキノ哥ノハシメノ句ニ、ア  
 メナルヤトイヘルハ、アメハソラナリ、ソラナリ、天ニアル  
天 虚

トヨメルナリ、オトタナハタト侍ハ、ヲトメノタナハタトツ、ケヨメルナリ、オトハヲトメノ詞ヲ略シタル也、ウナカセルタマノミソママルノトハ侍ハ、ヨキタマニアナアケテ、ソレヨリ糸ヲトヲシテツラヌキアツメテカサリニスル也、タナハタノタマノカツラモ是ナリ、オホカタノカラノ女ノ玉カツラ同事也

ウナカセルトハ、クヒナトニモカクルヲ申也、左ミキノ手ニカクルモハヘリ、其ヲ手玉モユラニトハヨメリ、足ノクヒニモウクルヲ足玉モユウニトハヨメリ、其アマタノ玉ヲ貫アツメタルヲミスマルノタマトハ申、サレハイヲツノミスマルノ玉トモヨメリ、ミスマルハ、ミハウヤマウ詞、ミカリ、ミユキナト申御トウス詞也、スマルトハ、モノヲトリアツメスフルコトノ詞也、サセスソノ五文字ハ同ヒ、キニテタカヒニカヨヒテマウス詞ナリ、同コエトモマウセリ、アナタマハヤミトマウスモ、ソノタマノアナヨリタマヲトラス事ヲ、ハヤキコトニソヘタリ、ソノタナハタノタマノテリカ、ヤケルヨソホヒヲアケテ、イマノアチスキタカヒコネノ神ノテリウルハシクシテ、フタヲフタ、ニノアヒタニテリカ、ヤキテキタルヲ、アメワカヒコノアチスキタカヒコネノイモトノシタテル

ヒメノヨメルナリ、タニフタワタラスハ、フタヲフタニヲテラシワタル心ナリ、ワタルヲコトハラクワヘテワタラストヨメルカ、又ワタラスルモシヲソケルカ、イカサマニモタカフヘカラス、ツキノ哥ハ初句ノアマサカルハ、ミヤコヲハルカニトヲサカルトヨメルナリ、アマトハソラトマウスコトヲ、オホヤケヲ天子トモ天皇トモ申コトハ、アメノ神ノウミタマツレル事ナレハ、スミタマフ宮ヲモ、天闕ト申ス、サテツキノ句ニ、アマサカルヒナツケトツ、ケタルハ、ミヤコヲモアマトモアメトモマウセハ、ソノミヤコヲサリテヒナニツケリトヨメリ、ヒナハミヤコヨリトヲキクニナレハ、エヒスカ井所ヲハヒナト申ユヘナリ、タシカニミチノクノツカルノサカヒナラネト、遠国ヲハアマサカルヒナトヨメリ、山ノウヘノラクラハ筑前守ニテ、アマサカルヒナニイトセスマヒシテミヤコノテフリワスレニケリ、トヨメルハ、ツクシノ筑前ノ国ニテヨメリ、又新羅ノクニ、テモアマサカルヒナトハヨメリ、又越中国ニテモコノコトヲハヨメリ、カヤウニヨメリ、シロシメスヘキ歎

次ニイハタラスセトイヘルハ、イモシハナニコトニツケテモヨムサタマルヤスメ文字也、ユクコトライユキナトヨメリ、

又エワタラストイフコト、ヲアエヨウイトマウスイツモシハ五文字  
 同コエナレハ、エライトヨメルカ、イシカハカタフチハ、石川  
 河ハトコロノ名也、サイハラニハ、イシカハノコマウトニヲ催馬樂  
 ヒヲトラレテ。モヨメリ、ソノイシカハニヨセテカタフチト  
 ヨメルハ、カハニハアサキトコロヲハセト申、フカキ所ヲハ河  
 フチト申ニ、アサシトオモフホトニフカキヲハ、カタフチト淵  
 申、ヤスクモエワタラスト申歟、アミハリワタシハ、アミヲ網  
 カタフチニハリテヒキハフル心ナルヘシ片淵  
 メヨロシニトハ、メハイモナリ、ツマナリ、サレハメニロヲ妻  
 ソヘテヨロツノモノニ、コロトモ、ノロトモイフ、古哥常ノ  
 習ナリ、サテメヨシトイハムトテメロヨシトハヨムナリ、ヨ  
 シヨリコネトツ、クルコトハ、カヘリクルカニ、カヘリクル  
 カネナトモヨメリ、ヨシヨリコトイフコトハニ、ヨリコネト  
 ツ、クルナリ、イシカハカタフチアリトモ、アミヒキワタシ  
 テココカシトヨメルナルヘシ、古今序ニモ、コノエヒスウタハ  
 モシノ数モサタマラス哥ノヤウニモアラヌコト、モ也、トイ  
 ヘルヲ、今日本紀ノ哥トモヲカレコレ勸合ヲシルシ申アケ侍  
 也、此上ハオホムハカラヒ候ヘシ

ラメリ、スメミマウタカヒマス、ツキニホノスセリノミコトヲ  
 ウメリ、ツキニホノサキミコトヲウム、又ハヒコホホテミノミ  
 コト、マウス、イロハノチカヒコトステニイチシロシ、マサニ  
 シリヌ、マコトニコレスメミノミコト也トイフコト、シカル  
 ニ、トヨアタツヒメミマヲウラミテアヒイハス、メミマウラ  
 ミタマヒテスナハチウタヨミテイワク

憶企都茂播隆尔播誉辰耐母佐弥耐拗茂阿堂播怒介茂誉播磨都  
 智耐理誉

オキツモハ、ヘニハヨレトモ、サネトコモ、アタハヌカモヨ  
 ハマツトリヨ(ママ)

顯照法師注云、オキツモハトハ、オキツハウミノオキ也、ツ  
 ハタスケ詞也、オキツ風トモヨメリ、モハ藻也、ウミノオキ  
 ニオヒタルモト申草ナリ、タマモナトモヨメリ、モニスムム  
 シトモヨメリ、ヘニハヨレトモハ、ヘトハ海ノホトリヲハ、  
 ウミヘトイフ、サレハオキツモハヘニハヨレトモトイヒヲク、  
 サネトコモトハ、サネトハムネトアルコトナリ、トコハ人ノ  
 ヌルユカナリ、サレハ、ムネトアルトコニヌルハアタハヌコ  
 ト也、トヨメリ、ハマツチトリトハ、ハマチトリニ、ハマツ  
 ハヤスメコトハ也、サキノオキツノコトシ、大方ノ哥ノ心ハ、

同卷注云、スメミマトヨアメツヒメヲメス、ナハチ一夜ニハ

豊田津姫

トヨアタツヒメヲメシタルニ、ヒトヨ一夜ニハラメリ、ソレヲアヤシミテスメミマウタカイタマフニ、ヒコホ彦火出見尊、テミコトヲウミタマヒタレハ、マコトニスメミマノミコナリトイフコトシルキニ、スメミマヲウラミテアタツヒメノモノヲノタマハネハ、又スメミマノウラミテヨミタマウ心ニカナエリ、タトヘハ、オキノモ瀧、ミキハニヨレトマコトニヌヘキトコモアタハサランニハアフマシキ事ソカシト、ハマチトリニイヒキカスル心ナルヘシ

豊玉姫

同卷注云、トヨタマヒメハワタツミノ神ノムスメナリ、ヒコホ、テミノミコトワタツミノホトリニ行トキ、シホツ、ノヲチマナシカタマノ小舟ヲツクリテ、ミコトヲノセテウミヘ、オシハナツ、ヲノツカラワタツミノミヤコニイタル、アメノ神ノムマコトキ、テトヨタマヒメヲアハセマウス、ツキニムツマカニシタシミテミトセニナリヌ、マサニカハラムトスルニヲヨムテ、其メミコトニイフテイワク、ワカミステニ天孫アメミマノミコヲハラメリ、アニワタツミノナカニテウムヘケヲヤマヤ、カルカ故ニマサニ。マムン時ニハ、カナラスキミノミモトニマウテン、ワカタメニウフヤヲワタツミノヘタニツクリテアヒマタハ、コレノソムトコロナリ、カルカ故ニミコトステニウノハヲフキテウフ屋ヲツクル、

イラカイマタフキアハセサルニ、トヨタマヒメオホキナルカメニノリテ、マサニイロトタマヨリ姫ワタツミニテリテキタリ出ル、時ニウフカツキステニミチテ、コウムトキニマサニセマリヌ、コレニヨリテフキアワスルヲモマタスシテキリイヌ、ステニヲモフニ天孫ニ申テイワク、妾マサニコウマムトキコフ、ナミマシソ、ミコト心ニソノ詞ヲアヤシ。テヒソカニウカ、ヒ給即化シテヤヒロノオホワニ、ナリヌ、然ニ天孫ノカイマミシタマフヲ知テフカクハチ、ウラミヲイタク、ステニコウミテ後、アメミマツイテ問テイワク、ミコノミナヲイカニ名ツケムカ、マサニヨケム、答テ云ク、ヒコナキサタケウカヤフキアワセスノミコ、トイヒヲハリテ則ウミヲ渡テサリヌ、時ニミコトスナハチウタヨミシテイワク

飢企都劉利一軻茂豆句志麻尔一和我謂祢志一伊茂播和素邇瑯一  
誉能捩劉釵劉母

オキソトリシ カモツクシマニ ワカキネシ イモハワソラシ  
ヨノコトノモ

顯昭法師注云、オキソトリカモツクシマトハ、カモヲハオキソトリトイフ、ワタツミノオキノ嶋ニ付テキル心ナリ、サテカモツク嶋トイハム料ニオキソトリトハヨミラク也、ワカキ

ネシトハ、ワタツミノヤニ天孫ノトヨ玉姫トアヒスミシコト  
 ヲ、カモツク嶋ニヨセテヨミタマヘルナリ、イモハワソラシ  
 トハ、豊玉姫ハ天孫ノイモナリ、ワソラシトハ、ワスレシト  
 云詞也、ストソトハ、サセソスシノイツ、五ノ字ハ同五音ノ故  
 也、又ラトレトハ、ラレロルル、マノイツモシ同音ナル故ニカ  
 ヲハシテヨメリ、カ、ル事サタマレルコトハ也、ヨノコト  
 〳モトハ、其ヨノコト、モ、コト〳ニワスレカタキヨシ  
 ナリ、マコトニ天孫ノミニテワタツミノミヤニスミ給ヒケン  
 ヲノコトハワスレカタクオホシケムコトハリニコソ、代考師説  
 云、オキツ鳥ハ鳧鴨トヨマムトスル発語ナリ、仍ヲキツトリ  
 カモツク嶋ト侍リ、タトヘハ黒イロライハムトテハ、マツ農  
 羽玉トイヒ、又山岳トヨマムトテハ、マツ足引トイフカ如シ  
 ト云々

又同注ニ云、ミコト婦人ヲトク乳母、マ湯母ヲヨヒ飯爵、マ湯啜ト  
 スヘテモロトモヲソナハリテ養奉、時ニカリニ他姫ヲモキテ、マ  
 チヲモテ皇子ヲヒタス、コノヨニ乳母ヲトリテ子ヲヤシナフ縁  
 ナリ、コノ後ニ豊玉姫ソノコノキラ〳シキヲ聞テ甚アワレミ  
 アカメテキタリテヒタスモノ也、時ニ豊王姫タマヨリヒメニヨ  
 セテカヘシ哥ヲタテマツリテ云ク

阿軻娜磨迺一比訶利播阿梨マ一登比鄧播伊珮耐一企弭我誉贈比  
 志一多輔妬句阿利計利一

アカタマノ一ヒカリハアリト一ヒトハイヘト一キミカヨソヒ  
 シ一タフトクアリケリ一

オホヨスコノ贈答二首ナツケテ拳哥ト云フ

顕昭法師注云、アカタマトハ、考師説云、明珠也、アキラカ  
 ニヒカルタマナリ、其心ハアカク光アルタマ有トヨノ人ハイ  
 ヘトモ、ナヲキミカヨソヒハマサリテタフトシ、トヨメル也、  
 ヲソヒトハ、ヨソノヒナリ、ヨソノヒハ、ヨソノホヒトモ俗  
 説ニハイヘリ、彦火ニ出見尊ノオホムアリサマノメテタカリ  
 シコトヲ女弟ノ玉依姫ニヨセテトヨメルハ、豊玉姫ノタマヨ  
 リヒメヲツカワシテミコヲヤシナハセタテマツル故ニ、コノ  
 カヘシ哥ヲヨミツタヘタル心ナルヘシ

本云

文永十年五月十六日以当黄門経俊卿本書写校合<sub>平</sub>

正議大夫大常大卿在判

本云

建永二年五月六日以正本書写<sub>早</sub>

印稚雅

右本故順教房子息前天文博士忠顯朝臣所持也、借請之正慶

元年中冬十有余日於相州鎌倉之郡佐介答蓬屋書写校合<sup>(ママ、谷カ)</sup>

諱林隱士桑門暹阿<sup>(伊カ)</sup>于<sup>(ママ)</sup>時<sup>(ママ)</sup>五十八

## 日本紀第二

神日本磐余彦天皇

神武天皇

彼天皇ノ御代<sup>戊午年</sup>ツチノエムマノトシ、ミカト<sup>エウケシ</sup>兄<sup>ヲトウケシ</sup>狛ヲヨビ弟<sup>ヲトウケシ</sup>狛メ

ス、時ニエウケシマウコス、オトウケシスナハチマウケリ、ヨ

リテエウケシサマ<sup>(カ)</sup>サマナルワサヲ

カタチハスナハチ天皇道<sup>ミチノラミ</sup>臣命ヲツカハシテ

ウケシヲノレ機ヲフムテオソレシヌ、トキニソノネ<sup>(ママ)</sup>ヲヒキイ

タシテコレヲキル、ナカレタルチツフ

ナキヲイル、カルカユヘソノ地ヲナツケテ菟田血原トイフ、

オトウケシオホキニ牛酒<sup>シ</sup>ヲマウケテモテ皇師ヲ<sup>ミヤヘ</sup>勞<sup>ミヤヘ</sup>饗ス、天皇

ソノシ、サケヲイクサノヒト、モニアカチタマフ、スナハチ御

哥ヨミシテイハク

于儂能多伽機珥辞藝和奈破蘆一和餓末菟夜辞藝破佐夜羅孺一

伊殊区波辞一區妮羅佐夜離一固奈<sup>(ママ)</sup>餓那居波佐磨一多和曾麼<sup>(ママ)</sup>

能一末廼那鷄勾鳩居氣辞被惠祢一字破奈利餓那居波佐麼伊智  
佐介幾末廼於<sup>(ママ)</sup>明鷄勾鳩居氣儂被惠祢

ウタノタキ<sup>(ママ)</sup>ニシキワナハル一ワカマツヨシキハサヨラス一イ

スクハシ一クチラサヨリ一コナミカ一ナコハサハ一タチソハ

ノ一マノナケクヲコケシヒエネ一ウハナリカ一ナコハサハ一イ

チサケキ一マノオホケクヲ一コケターヒエネ

顯昭法師法云、ウタノタカキニシキワナルトヨメルハ、天皇<sup>(ママ)</sup>

ノメストコロノ兄ウケシヲヨヒオトウイ<sup>(ママ)</sup>シコノフタリハ、ウ

タノ縣ノヒトコノカミトイヘリ、オトウケシハメシニシタカ

ヒテマイレリ、エウケシハマイラス、サカサマナルワサノミ<sup>見</sup>

エシカハ、天孫<sup>道臣</sup>ミチノヲミヲツカハシテウタシム、ソノチナ

カレテツフナキヲイル、ソノ地ヲウタノチハラトイフ、サレ

ハウタノタカキニシキワナハルトハ、タカキハ、キノタカキ

ニアミヲハリテシキヲトルニヨセタリ、ツキニワカマツヨシ

キハサヨラストハ、アミヲカケテ<sup>待夜</sup>マツヨアミニシキノカ、ラ

ヌナリ、ツキニイスクハシトヨメルハ、師説ヲカムカヘハヘ

ルニ、救コトヲエサルナリ、或説ニイワク、イスクシキナリ

トイヘリ、イソカシキトマウスコ、ロニヤ、次ニクチラサヨ

リトハヘルコトハニイハク、皇軍ナリトアル本二注セリ、私

二案之侍ニ、クチラセリハ、ミカタノイクサノヨシルイキヲ  
 ビニヨセテ、エウケシオヲモヒノコトクニウテルコ、ロニヤ、  
 ヤカテソノツキノ句ニ、コナミカナコハサハタチソハノマノ  
 ナケクヲコケシヒエミトヨメルハ、コナミトマウスコトハ、  
 ヒトノメニトリテサキノメヲハコナミトマウス、ナコハナム  
 ナノナヘテノナ、リ、タチソハノトハ、タチソワヌトマウス  
 コトハ、ナニノ又ニトマウス五音ハヲナシコエニテ、又トノ  
 トオナシヒ、キナリ、モトノメナレハソノイヘニサワカスキ  
 テ侍ニ、タヒニアルクトキニハ、タチソハ又ナケキアレト、  
 マコトニハオソレモナシトマウスコ、ロナリ  
 次ニウハナリカコハサハトヨメルハ、ウハナリトハ、ノチノ  
 メヲ申コトナレハ、ソレハスエノメニテタヒナトニタマ  
 アヒトモナフハカリニテ、イチサケニヒマハオホカレトコ、  
 ロニマカセネハ、イキヲヒヲトレルヨシヲヨソエタルニヤ、  
 クチサカキトモヨメリ、イチハヤトヨメル心ナルヘシ、コノ  
 心ニテスエノコトハヲハオモヒアワスヘキニヤ、但コナミウ  
 ハナリ詞ノ末ニ同様ニ、居氣辞被惠祢居氣儂被惠祢トハヘリ、  
 ネヲヌトカケル本ハヘリ  
 ナネノ又ニ同五音也、辞ト儂トハカリカワレリ、居氣ハカケ

ナリ  
 カケコトキ同五音也、コナミウハナリトモニカケ妻ナルユヘ  
 ナリ  
 尚試案云、後哥ノタカヒニマホリタ、カヒテ、我ハヤエスウ  
 カヒカトモイマタスケニマカレ、トヨメル詞ニテオモフニ、  
 コナミカコヲ居ケトイヒテソヒエストヨメル也、シトソト同  
 音也、ウハナリカナコヲコケトイヒテツヒエストヨメルナリ、  
 タトツト同音也、コナミハイヨソソヒエ、ウハナリハツイ  
 エヌヘキカハリメナリ、後哥トハ墨坂ノタ、カヒノ哥也、其  
 所ヲ御覽候ヘシ、此卷ノ奥也  
 本紀云、是謂東目哥、(今)樂府此哥ヲ奏スルコトハナ  
 ヲ手量大小、ヲヨヒ音声巨細アリ、コレ古ノ  
 遺式也、道人知カタク侍歟、神樂催馬楽風俗哥等ソノ振  
 ヲハマネヘト其心難伝  
 冬十月天皇ソノ嚴盆糧ヲ嘗タマフ、兵ヲト、ノヘテ出タマフ、  
 先八十梟帥ヲ国見岳ニウチテヤフリキル、是役ナリ、天皇ミコ、  
 ロサシカチナンコトヲタモチタマフ、御哥ヲ作タマフ  
 伽(牟)伽莖能伊齐能于瀾能於費異之珥一夜異波臂茂等倍屢  
 之多(マ)儂瀾能(マ)阿諾豫(マ)之多太瀾能異波比茂等

倍離于智弓之夜葬務とことこと

カムカセノ イセノウミノ オミイシニヤイハヒモトヘル  
シタ、ミノ一とことこと アコヨとこと シタタミノ。ハヒ  
一モトヘリ一ウチテシヤマモ とことこと

顯昭法師注云、神風伊勢ハ日本紀ヨリハシマリテ万葉集ニソ  
ノ哥オホシ、サ、ナミアフミ、アラニヨナラトツ、ケタルカ  
如シ、オホヨスカノコトクサタマリテヨミツ、クルコトハミ  
ナ日本紀ヨリイテタリ、神風イセノウミノオホイシニトヨメ  
ルハ、オホ石ヲモテ国見岳ニタフト云リ、ヤイハイモトヘ  
ルシタ、トハ、シタタミトイフ貝アリ、イワノハサニモ  
トヘリ一、モトヘリトハ、マトイツケル也、イハヒハ、イハ  
ノヒマトヨメル也、アコヨトハ、兵ヲト、ノヘテ八十<sup>八十集</sup>  
タケルラクニミノヲカニテウテルヲ、シタ、ミヲヤスクトレ  
ルニ喩、ソレヲアコヨトハ、ヲサナキコトモヲアナツリ  
テ云詞也、ウチテシヤマムトハ、カノクニミノヲカノイクサ  
ヲウチテコソヤマメトヨメルナリ

私云、神風トハフルキ式ニ伊勢ノ異名ト云リ、神ノメクミノ  
アマネキヲ風ニタトエタルナリ、万葉第二卷長哥云、ワタラ  
ヒノイツキノミヤ由神風ニ伊吹迷シ<sup>(ママ)</sup>アクモヲ日ノメモミセス

トコヤミニオホキタマヒチサタメテシミツホノクニヲ神ノマ  
ニフトシキマシテワ、此長哥ノ心モ風ニモコトヨレリ、威風  
徳風ナト申テヒロニメクミモタトフレハ、モトモヨソヘラレ  
テ侍歎

或人申侍シハ、ミモスソ河ニ神カ瀬トテ大神宮ノアマクタラ  
セ給ケル所ニ付テ、神カ瀬伊セトハツ、クルナリト師頼大納  
言説ト申侍シカト、世人不用歎、又日本紀ニ天照太神倭姫命  
ニ悔<sup>(誨)</sup>テノタマハク、是神風伊勢国ハ即常世之浪重浪帰国也云

或人申云、若狭守通宗筑紫安楽寺ニテ神風トヨミタリケルヲ  
ハ、時ノ人カタフキ侍リケリト申侍テ侍云、尤哥人可用侍  
歎

又承暦二年四月廿八日内裏哥合ニ経信卿説哥云、ワカヨハヒ  
ツキシトソ思カミカセヤミモスソカハノスマムカキリハ、此  
哥合ノ後ニ或人夢唐装束シタルオムナオホクナラヒキテ此哥  
ヲ詠吟、ヲノく感歎云、此哥ニヨリテ皇帝御宝算可令増長  
御之由令申云、彼哥合ノ時御年廿六歳也、其後五十二年天  
下ヲ知食、御宝算七十七歳云、勅撰両度、御在位間後拾遺、  
太上天皇御時金葉、又嵯峨野并大井河行幸、承暦殿上哥合、



鳥羽殿前裁合、月見御幸、白河花見御幸、朝暮和哥御宴  
之外、一年三百六十日之御会之時(略)天眩(略)数十人其中一日無闕怠  
者、御製并春宮大夫公実卿、修理大夫以上三首云々顯季卿、凡和哥御遊先  
代未聞之由、斯道先達各被記置云々、如此勝事不注進者自然  
漏脱遺恨無極候歟

(雄略紀)  
十二年冬十月天皇本公關鷄御田二命セリ、ハシメテタカトノ

ヲ作給フ、爰ニ御田(ママ)カトノニホリテ、ヨモニハシルコト、  
ヒユクカ如シ、時伊勢ノウネメアリテアフキテタカトノ、ウ  
ヘヲアフキテ見ニ、カノウネヘニハタフレテ、サ、ケタルミ  
ケツモノヲコホシツ、御門スナハチソノウネメヲミタヲカセ  
リトウタカヒ給テ、マサニコロシテモノ、ヘニツケタマフ、  
トキニハタノサケノオモトオホトモハヘリ、琴ノ音ヲモテ天  
皇横琴ヲサトラス、引テイワク

柯武(ママ)柯荏(ママ)能副能(ママ)ミミ奴能婆柯曳鳴伊褒甫流柯枳底志我都  
矩屢麻泥尔飫褒枳泚尔柯陀俱都柯陪麻都羅武騰倭我伊能致  
謀那我俱母鵝騰伊比志挖俱弥幡夜阿挖羅陀(ママ)弥播夜

カムカセノ イセノ ミミヤツノ ハカエヲ イホフル  
カキ(ママ) シカツクルマテニ オホキミニ カタクツカハマツ  
ラント ワカイノチモカト(ママ) 伊比志タクミハヤ アタラタ

### クミ播夜

コ、ニミカト琴ノ声ヲサトリ給テ、ナヲソノツミヲユルシタ  
マフ

同卷云、ステニシテアマリノトモカラナヲオホクシテ其心ハカ  
リカタシ、ヨリテヒソカニ道臣命ニミコトノリシテノタマワク、  
イマシヨロシク大来目部ヲ帥シテ大室ヲ忍坂ムラニツクリテト  
レ、トノタマフ、ミチノヲミノミコトシノヒノオホセヲ承テ、  
ムロヲ、サカニホリテ、ワカタケキイクサヲ撰テアタトマセス  
フ、(ヒ)トソカニ契テ云、サケタケナハニナリテ後、ワレタチテウ  
タハンニ、イマシラワカウタノ声ヲ聞テ、スナハチモロトモニ  
アタヲサセ、ステニ并シツマリテサケモル、アタワカカクシハ  
カリコトアルヲシラスシテ、心ノママホシキマ、ニ酔ヌ、ミチ  
ノヲミノミコトノタチテウタヒテイワク

於佐(ママ)箇廼於朋務露夜珥比苔瑳破而異離烏利苔毛比苔瑳破而枳  
伊離烏利苔毛泚都〱志俱梅能固邏餓勾鷺都〱伊異志都〱伊  
毛智于智弓之夜葬務

ヲサカノ(ママ) ホオムロヤニヒトサハニ イリヲリートモヒト  
サハニ キイリヲリートモミツ〱シークメノコラカークケ  
ツ、イシツノイーモチウテシヤママ

顯昭法師注云、ヲサカノオホムロヤニハ、大室ヲ忍坂邑ニツ  
クリ、ヒトサハニイリヲリトモ、ヒトサハニキイリヲリトモ  
トハ、ヒトサハニハ、サハ、多カリト云詞也、ミツ／＼シハ、  
ミチ／＼タリト云フ詞也、クメノコラカハ、大来目部ヲミチ  
ノヲミノ命カ帥スルナリ、クケツ、イハ、或注云、劔名也、  
其頭曲、イシツ、イハ劔名也、其頭似石也、モチウテシヤマ  
ムハ、ツヒニミナモチウテ、ソヤママト云心ナリ

又云、トキニワカイクササウタヲキ、テ、トモニソノ頭椎劔  
ヲヌキテ、ヒト、キニ虜ヲ殺ス、マタノコルモノナシ、ミカト  
ノイクサオホキニヨロコヒテ天ヲアフキテワラフ、ヨリテウタ  
ヨ。シテ云、

伊葬波豫々こここ阿々時夜塙伊葬儻而毛阿誤豫伊葬儻而毛阿  
誤豫

イマハヨ ここここ ア、シヤヤ イマタニモ アコヨ

イマタニモ アコヨ

顯昭法師注云、イハヨハ、今ハヨシトイフナリ、ア、ハ、ワ  
ラフコエ、時夜塙ハ、ナヲヲカシト云カコトシ、イマタニモ  
アコヨハ、前ノ哥ノ詞ナリ

今来目部ウタヒテ後大晒、コレソノ縁ナリ、又ウタヒテイワク

愛弥詩烏毘儻利毛々那比菩比菩破易陪迺毛勢儻

アミシーヲヒタリ一モ、ナヒト一ヒト破イヘトモ一タムカヒモ  
セス一

コレミナシノヒオホムコトヲウケタマハリテ、コレヲウタフ、  
アヘテホキメツルニアラサルニアラサルモノナリ

顯昭法師注云、アミシホヒタリトツネニヒトハ句ヲキリテヨ

ム、シカアレトモ、コノ哥ヲヨクヨク心心得エハヘレハ、ア  
ミシトハ、エミシナリ、ヲヒタリトハ、ヲイタルトイフコト

ハイマイハク、衣比須、モ、ナイトハ、或注ニイワク、イフ  
コトハ、夷狄人敵百人、ソレヲ、シカヘシテモ、ノヒト、  
イフニ、ヤカテヒトハイヘトモトツ、クル也、タムカヒモセ  
ストハ、タ、カヒニマケタレトハチヲモキヨメヌ心ナルヘシ

又云、椎根津彦タハカリテイワク、今ハワカメイクサヲツカハ  
シテ、忍坂ノミチヨリ、アタミヲカナラストキツハモノヲツク  
ラシテオモムカム、我スナハチツヨキイクサヲハセテ、タ、チ  
ニ墨坂ヲサシテ菟田河ノ水ヲトリテ、ソノ炭ノ火ニソ、カム、  
ニハカニイツ、ソノオモヒノホカニヤフル、事カナラスアルヘ  
シ、天皇ソノ策ヲホメテシ、メタマフ、アタ大兵ステニイタル  
トヲモヒテ、カヲツクシテアヒマツ、コレヨリサキニ天皇軍セ

メテカナラストリ、タ、カヒテカナラストイクサノ人トモツカレ  
ツユルコトナキニアラス、故ニイサ、カニオホムウタトシテ、  
イクサノ人共ノ心ヲヤスメ給ウタヨミシテ云ク

哆々奈梅弓二伊那嗟能椰麻能一虚能葬由毛一易喻耆摩毛羅毘  
多々介陪麼和例破椰惠怒之摩途等梨宇介譬餓等茂伊莽輸介珥  
虚柝

タ、ナメテ一イナサノヤマノ一コノマユモ一イユキ一マモラヒ  
タ、カヘハ一ワレハヤエヌ一シマツトリウカヒカトモ一イマ  
スカニコネ一

果男軍ヲモテスミサカヲコシテ、ウシロヨリハサメウチヤフテ  
ソノ梟帥ヲキリ、兄磯城等ヲウツ

顕昭法師注云、タ、ナメテハ、タ、チニナラヘテトヨメリ、  
イナサノヤマハ所ノ名ナリ、遠江ニハヘリ、イナサホソエハ  
オナシ所歟、コノマユモトハ、木ノ間ヨリトマウス詞ナリ、  
由トマウスコトハヲカキテ、ヨリト訓ニヨムナリ、万葉集モ  
コノ日本紀ノ哥ヲ本トシテ磯ノマユナトヨメリ、イソノマヨ  
リトマウス詞ナリ、コノカキヤウヲカムカヘサル人、磯ノ眉  
トイフコトノ侍歟トタレリ、他ノコトニモコノ由字ノコトオ  
ホシ、イユキトハ、ユクトマウス詞ニイノ字ヲクワヘタリ、

万葉ノツネノ詞ナリ、コレスナハチ此日本記ヲマホレルカ、  
マモラヒトハ、マホルト申詞也、タカヒニマホリタカフナリ、  
ワレハヤエヌノコトハ、古今長哥ニ、老ノカスサヘヤヨケ  
レハ、ト忠峯カヨメルコトハ、ヨハシト申心ニカナヒテヤ、  
或ハ、ヤフルレヌト申心歟、モシハ、ヤセヌ歟、イカニモツ  
ヨカラヌ。ナルヘシ、シマツトリウカヒカトモツ、クルコト  
ハ、鶺鴒トヨマントヲモフ發語、又鴨トツ、ケムトオモフ  
發言ニテモ侍リ、シマツトリハ、コノミテエタルシマニヌ  
ルトリナリ、今ノウタハ、シマツトリウカヒカトモイマスカ  
ニコネトハ、イマスクニコカシトヨフナ成ケリ、ケトクト同  
音ナリ、又コトイフ詞ヲコネトイフハ、ツネノコトナリ、古  
哥ニソノ證哥オホシ  
十有日本  
又十月二日皇師ツヒ長髓彦ヲウツ、シキリニタ、カヒス、カツ  
コトアタハス、時ニタチマチニヒシケテ雨水フル、即カコネノ  
イロノアヤシキ鴉トヒキタリテ、ミカトノミユミノハスニト、  
マレリ、トヒヒカリカ、ヤキテ形イナヒカリノ如シ、コレニヨ  
リテナカスネノ人トモミナマトヒテキハメタタカハス、ナカス  
ネハコレムラノ本ノナ、リ、マタモテ人ノ名トス、ムカシ孔舎  
衛ノタ、カヒニ、五瀬ノミコトヤニアタリテカムサリマセリ、

天皇フ、ミモチタマフ、ミコ、ロニコロサムト思テオホムウタ  
ニヨミテイワク

瀛都々志俱梅能故邏餓一介蒼茂苔一曾廼餓毛苔一曾祢  
梅一屠那藝弓二于管弓之夜葬務一

ミツくシークメノコラカ一カキモトニアハフニハ一ケミラ  
一ヒトモト一ソノカモト一ソネメ一ツナキテ一ウチテシヤママ  
又謡之曰

瀨都々志俱梅能故邏餓介蒼茂等珥宇惠志破餌介瀨句致珥比  
俱和例破流輸例儒于智弓之夜葬務

ミツミシ クメノコラカ カキモトニ ウエシハシカミ  
クチニヒク ワレハワスレス ウチテシヤママ

顯昭法師注云、ミツくシハ、ミチニミチタリシトイフナリ、  
クメノコラト来目部ノツハモノナリ、サキノオホムロニイリ  
ヲリシモノトモナリ、アワフトハ、アハマケルハタケヲハア  
ワウトイフ、ウリ瓜表、ムキフ、タテフナトモイフ、ハタケウト  
モイフ、カミラトハ、ニラトハケストノマウスコトナリ、ウ  
ルハシキフミニハ、ニラト申スナリ、ソノニラノナカニオホ  
ニラ、コニラトテオホキナルニラニハ、ケアリ、ソレヲケニ  
ラトハ申也、アル本ニハ、ケモシヲカキテ、ケミラトモカミ

ラトモ読リ、

ノカモト、ハ、ソレカモト、イフ、ソネメト  
ナキテハ、ソノメヲツツナカムト云ナリ、ウチテシヤママハ、  
ケラウハ心ニタカフコトアラハメヲウツコト侍リ  
次ノ哥上ノ三句ハオナシコトナリ、ヤキモトニウエシハシカ  
ミハ、ナルハシカミト申木ニアラス、ツチハシカミト申テ文  
字モカワレリ、ソノハシカミヲクニク、ミタレハ、クチャ  
ラメキテヒサシクヤマヌヲ、人ノヲカシノワスレヌニハタト  
ヘタリ、ヲハリノコトハ、サキノ哥ニオナシ

日本紀第四

- 神渟名川耳天皇 綏靖
- 磯城津彦玉手看天皇 安寧
- 大日本彦耜友天皇 懿德
- 觀松彦香殖稻天皇 孝昭
- 日本彦国押人天皇 孝安
- 大日本根子彦太瓊天皇 孝靈
- 大日本根子彦国牽天皇 孝元
- 稚日本根子彦太日天皇 開化

日本紀第五

書本(ママ)ノ

御間城入彦五十瓊殖天皇

崇神

文永十年五月廿九日 校合了

正議大夫在判

本(ママ)、

建永二年五月三日以正本書写之了

八年夏四月庚子朔乙卯、高橋邑人活日ヲモチテ大神ノ掌酒トス、冬十二月二大田ニ根子ヲモテ大神ヲマツラシム、コノヒ活日ミツカラ神酒ヲサ、ケテ天皇ニタテマツル、ヨリテ哥ヨミテイハク

又云

弘安七年仲春之候令詔書心性房了

伊句臂佐（ママ）とこここ  
コノミキハ ワカミキナラス ヤマトナル オホモノヌシノ  
カミシミキ イクヒサ （破損）とこ

一校了 寂恵

于時正慶元年霜月中之三日以右本(ママ)言写了

暹阿(伊カ)

仮名日本紀自第五至第八（外題）

ケンア（梵字）

リシテマウチキミタチ哥ヨミス  
顯昭法師注云、コノミキハワカミキナラストハ、ミキトハ酒ヲ申、其ヲワカサケニハアラストアラカフ也、ヤマト(ママ)ストハ、ヤマトノ国ナルトイフナリ、フル（ハナルト）云詞ヲハナスト云ケリ、成ト云文字ヲカケリ、又、ヒハ、コト、フエ、ツ、ミナトノナルコエヲモナストカケリ、古今集ニモ、カキナスコトノトヨメルハ、カキナラスト、申同詞也、但此日本紀

ノ山トナスト申詞ニツキテ、師説ニ兩儀ミエタリ、一ノ説ハ倭国ヲ作成ト云也、一ノ説ニハ倭国ナルト云也、但此説ヲハ

オトルト云ヘシト云々、私云、古今哥ニ、山トナルミワノ山モト恋シクハトフラヒキマセミワノ山モト、ヨメル哥ハ、

山トニアルミワ山モト、キコエタリ、此日本紀ノ哥モ山トニアル大モノヌシトキコエタリ、シカレトモ古師説能々可案歟、

オホモノヌシノ神ハ、カノ国ニオハスル神也、サケツクルヲハ、カムトヨメリ、昔ハ米ヲカミテ酒ニハナシケルニコソ、

其モヤムコトナキ神ノシワサナルヘシ、オホヤケニタテマツランミキヲ、タ、人ノカマムコトハナメケニヤ侍ラン、イク

ヒサ、トハ、イクラヒサシサニナリヌラントオホメケルナルヘシ

<sup>16</sup>カクノコトクウタヒテ神宮ニトヨノアカリシテ後ニマウチキム  
タチ哥ヨミシテイハク

宇磨佐開瀝和能等能々阿佐妬瑠毛伊第豆由介那瀝和能等能  
渡塙

ウマサケ ミワノトノ、アサトニモ イテユカナ ミワノ  
トノトヲ

<sup>17</sup>コ、ニ天皇ウタヨミシテイハク

宇磨佐階瀝和能等能々阿佐妬瑠毛於辞寐羅箇祢瀝和能等能渡  
塙

スナハチ神宮門ヲヒラキテミユキトコロトス、イハユル大田ニ根子ハ今ノ三輪君ヲカ始祖ナリ

顯昭法師注云、ウマサケミワノトノ、アサトニモトヨメルハ、ウマサケハヨキサケナリ、ミワトハ、神ニタテマツルサケヲ

マウセハ、トリワキテ申ニコソ、サテウマサケミワトツ、ケテ侍歟、ミワハ所ノ名也、神酒ヲミワトヨミソメテ侍モ、三

輪社ニヨセテ侍ニコソ、三輪ノ君ハ大田ニ根子君ヲカハシメノオヤハスナハチ大物主ノ社也、ミワノトノ、トヨメルハ、

カノ神殿ニヨセタルニコソ、此日本紀ノ詞ニモ、神ノ宮門ヲヒラキテイテマストカケリ、アサトニモトヨメルハ、朝ノ戸

ヲヨメル、イテ、ユカナトヨメルハ、出テユカナント申詞ヲ申サセル古語ノ常ノ事ニハヘリ、次哥上ノ三句ハ同詞也、第

四句ノ、ヲシミラカネトハヘルハ、オシヒラキカネトモ、詞ヲミラトカケルハ、ヒラトオシナシ詞也、寐ノ字ヲハ、ツシ

マニハヒトヨメリ、ヒトヨメリ、ヒラキト云ヘキヲ、キノ字ヲ略セリ、第五句ハ、前哥ノコトシ、然者前哥ノ出テユカト

後哥ノヲシミラカネトハ同心歟、又万葉集ノ第四卷ニハ、味

酒ヲ三輪ノハウリカト書テ、アチサケヲミワノハフリトヨメリ、第十一卷ニハ、味酒ノ三毛侶ノ山トヨメリ、ミワノ詞ハ同シミモロハ三室山歟、共ニ神社ナレハ神社ニヨスルナルヘシ、日本紀ノウマサケヲマネヒテ、アチサケトヨメルカ、万葉ノ味酒ヲムマサケトヨメル本モ侍レト、多本アチサケトソハヘル、日本紀ニツカハウマサケトソ侍ヘキ、仮名書ニ宇磨佐開トカキテ侍ユヘナリ、ムマウマハ同事也

十年秋七月群卿ニ詔シテイハク、民ヲミチヒク本ヲシヘオモフクルニアリ、今ステニ神ヲウヤマヒテワサハヒ皆ヤミヌ、トヲキ国人等ナヲノリヲウケス、是イマタ君ノオモムキニナラハス、ソレ群卿ヲエラヒテヨモニツカハス、大彦命ヲ北陸ノミチニツカハス、武<sup>(ママ)</sup>停河別ヲ東海ヘツカハス、吉備津彦ヲ西道ニツカハス、丹波道ノ主ノ命ヲ丹波ニツカハス、ヨリテ詔シテイハク、モシミコトヲウケサルコト有ハ、即兵ヲツカハシテ是ヲウタム、共ニシルシヲサツケテイクサノ君トス、大彦命和珥坂ノ上ニシテ時ニ少女アリテウタヨミシテイハク

<sup>十九</sup> 淤磨紀<sup>(ママ)</sup>果利寐<sup>(ママ)</sup>播椰<sup>(ママ)</sup>飢<sup>(ママ)</sup>迺<sup>(ママ)</sup>餓<sup>(ママ)</sup>鳥<sup>(ママ)</sup>鳩<sup>(ママ)</sup>志<sup>(ママ)</sup>齊<sup>(ママ)</sup>務<sup>(ママ)</sup>苔<sup>(ママ)</sup>農<sup>(ママ)</sup>殊<sup>(ママ)</sup>末<sup>(ママ)</sup>勾<sup>(ママ)</sup>志<sup>(ママ)</sup>羅<sup>(ママ)</sup>珥<sup>(ママ)</sup>比<sup>(ママ)</sup>壳<sup>(ママ)</sup>  
那素寐殊望

ミマキイリミコハヤ ヲノカヲ、 シセムト ヌスマクシラ

ニ ヒメナソミスモ

一云

廿於<sup>(ママ)</sup>明<sup>(ママ)</sup>耆<sup>(ママ)</sup>妬庸<sup>(ママ)</sup>利于介伽卑<sup>(ママ)</sup>弓<sup>(ママ)</sup>許<sup>(ママ)</sup>呂<sup>(ママ)</sup>佐<sup>(ママ)</sup>務<sup>(ママ)</sup>苔<sup>(ママ)</sup>須<sup>(ママ)</sup>羅<sup>(ママ)</sup>句<sup>(ママ)</sup>鳩<sup>(ママ)</sup>志<sup>(ママ)</sup>羅<sup>(ママ)</sup>珥<sup>(ママ)</sup>比<sup>(ママ)</sup>壳<sup>(ママ)</sup>那<sup>(ママ)</sup>素<sup>(ママ)</sup>

寐須望

オホキトヨリ ウカ、ヒテ コロサムト スラクヲシラニ

ヒメナソミスモ

コ、ニ大彦是ヲアヤシムテ童女ニ問テイハク、汝カ詞ナニコト、答テイハク、モノモ申サス、只哥ヲノミウタフ、スナハチ重テ前ノ哥ヲナカメテタチマチニミエス、大彦婦テツフサニ奏ス、コ、ニ天皇姑倭迹<sup>(ママ)</sup>日百襲<sup>(ママ)</sup>姫命トクサカシクテ能ユクスエヲサトル、其哥ノシルシヲ知テ天皇ニマウス、コレ武<sup>(壺)</sup>垣安彦<sup>(壺)</sup>カミカトカタフケントスルシルシナリ

顯昭法師注云、此両哥ハオホヤウ同コ、ロナル上ニ、スエノ三句カナラス是両説ヲ書ノセテ侍トミエタリ、前ノ哥ノハシメミマ<sup>(ママ)</sup>ミマ<sup>(ママ)</sup>キイリミコハ、私云、ミハ大心也、大山ヲミ山ト云カ如シ、イリミコハミコトヲ入給ヘト也、ハヤハフルキ義ニ、ヲシ<sup>(ママ)</sup>ヲシ<sup>(ママ)</sup>ミタテマツル心也、ヲノカハ、オホヒコノミコト也、ヲ、ハ君ヲト云、死セムト云ハ、コロサムト云義也、私云、シトハ死ハシヌル也、コロスト同心也、ヌスマクハ、

古義、ノソミマウテクト云心、私云、ヌスマハレテキタルト  
イハムニタカフヘカラス、シラニトハ不知ト云、是ハ無不審  
歟、ヒメナソミスモハ、古義ニイハク、コロサントスルハカ  
リコトヲハカリコトヲ不知シテ、ヲサナキランナコノヒメナ  
ソヒラスルニタトヘタリ、私云、ツネニハヒナ、ト申ヲ、ヒ  
メナソヒトヨメリ、オナシコト歟

後ノ哥ハ大様同心ナレハ古義ヲモノセサルニヤ、然者私ニシ  
ルシ申、初句ノオホキハ、大彦ノミコトヲ略シテ初ノオホキ  
トハカリヲアケタリ、トヨメリハ、外ヨリウカ、ヒテコロサ  
ムトスルヲ不知ト云ヘリ、只前ノ哥ノ心也

<sup>18</sup>是後倭迹ミ日百襲姫命大物主ノ神ノミメトシテ後、ソノ神ツネ  
ニヒルハミエス、夜ノミ来テマス、ヤマトヒメノミコトセナニ  
カタリテイハク、君ツネニヒルミエネハアキラカニ其御顔ヲ見  
コトヲエス、ネカハクハシハラクト、マリ給へ、アケム朝ニア  
フキテ美麗ナルミスカタヲ見ムト思、大神答テイハク、イフコ  
トハリイヤチコナリ、ワレ明旦ニ汝力櫛ケニ入テヲラン、ネカ  
ハクハ吾カタチヲ、トロクコトナカレ、コ、ニヤト、ヒメノミ  
コト心ノウチニアヤシムテ、アクルヲ待テクシケヲミルニ、ツ  
牟ニ美麗ナル小蛇アリ、其ナカサオホキニ、ナリ衣紐ノコトシ、

スナハチ是ニヲトロキテサフ、時ニ大神ハチ有テタチマチ二人  
ノカタチトナリタマフテ、ソノミメヲ語テイハク、イマシシノ  
ヒテアレニハチミセツ、アレカヘリテイマシニハチミセム、ヨ  
リテオホソラヲフムテミモロノ山ニホル、コ、ヤト、ヒメノ  
ミコトアフキミテクヒテ急居、スナハチ箸ニ陰ヲ撞テ薨、スナ  
ハチ大市ニハフル、時ノ人、ソノハカヲナツケテ箸墓ト云、此  
ハカヒルハ人ツクル、夜ハ神作、カルカ故ニ大坂山ノ石ヲハコ  
ヒテツクル、即山ヨリハカハニイタルニ人民アヒ踵、手遞伝ハ  
コフ、時ノ人哥テイハク

飲明佐介珥菟藝廼煩例屢伊辞務羅塢多誤辞珥固佐磨固辞介豆  
務介茂

オホサカニ ツキノホレル イシムラヲ タコシニコサハ  
コシカテムカモ

顕昭法師注云、オホサカニツキノホレルイシムラヲトハ、コ  
ノ箸ノ墓ノ事ハクハシク上ノ詞ニミエタリ、件箸ノハカハ、  
大坂ノ山ノ石ヲ人民アヒツキテタコシニシテハコヘリ、是ハ  
ヲサナキモノ、手車ト申コトノヤウニ、手ヲクミテ石ヲハヒ  
ケリ、人民アヒツキテタエスハコヘハ、ツキノホレル石ムラ  
トハヨメリ、タコシニコサハコシカテムカモトハ、カヤウニ



ネムコロニハコハスハ、越カタカルヘシ、ヒルハ人ツタリ、  
夜ハ神作トハヘレハ、ナシカコシカテムトヨメル也

六十年秋七月群臣ニ詔シテイハク、武日照命天ヨリモテキタレ  
ル神宝ヲ出雲ノ大神ノ宮ニヲサム、出雲臣ノ遠祖イツク振根神  
宝ニ主タリ、コレツクシニ行テアハス、其弟飯入根皇命ヲカ  
フリテ、神宝ヲ甘美韓日狭ニサツケテ貢上、ステニシテ出雲フ  
ルネツクシカリカヘリマウシテ、ソノ弟飯入根ヲセメテイハク、  
数日ハマタスシテナシカタヤスク神宝ヲ遠ユルス、トモ月ヲヘ  
テナヲ恨忿ヲイタキテ弟ヲコロサムノ心サシアリ、仍弟ヲアサ  
ケテイハク、コノ比止屋ノ淵ニオホク菱オヒタリ、ネカハクハ  
共ニ行テミムト思、即兄ニ随テ行、是ヨリ前ニ兄ヒソカニ木刀  
ヲツクリテカタチタチニ、タリ、其時ニミツカラ是ヲハケリ、  
弟真刀ヲハケリ、共ニ淵ノホトリニイタル、兄ヲト、ニ云、淵  
ノ水イサキヨシ、トモニアミムオモフ、弟アニコトニシタカ  
フ、ヲノノハケル刀ヲトキテフチノ辺ニヲイテ水ニ入、スナ  
ハチ兄ヲト、ノ真刀ヲトリテミツカラハク、後ニ弟ヲトロキテ  
兄カ木刀ヲトテトモニアヒウツ、弟木刀ヲヌクコトエス、アニ  
弟イヒイリネヲウチコロス、カルカユヘニ、時ノ人ウタヒテイ  
ハク

世  
椰句毛多菟伊頭毛多鷄流餓波鷄流多知菟頭邏佐波磨枳佐微那  
辞瑯阿波礼

ヤクモタツ イツモタケルカ ハケルタチ ツ、ラサハマキ  
サヒナシニ アハレ  
頭昭法師注云、ヤクモ立イツモハ、素菱烏尊ノハ詠、八雲立  
出雲ヤヘキノ哥ヲマナヘリ、タケルカハケル刀ツ、ラサハマ  
キハ、弟ノ真刀ナルヘシ、其ヲ出雲ハ民ノナ、タケルハ兄カ  
ツクシヘクタレリシアヒタ独歩シタリシヲ、タケルトツケタ  
ルカ、ツ、ラサハマキハ、ツ、ラニ古ハサハマキヲシタリケ  
ルカ、サハマキトハ、カノカハヲホソク切テ、刀ノサヤツカ  
ナトニアハラニマキテウルシヲヌレリ、其ヲ昔ハサヒナシニ  
アハレトハ、サヒサリシカト、ソレニテ兄ニコロサレタルカ  
ハカナキヨシナリ、ツラヲマキケル歟、フルクハ和琴ノ緒ニ  
モカツラヲモシケリ、サテ葛絃ト詩ニモツクレリ、哥ニモヨ  
メリ、後拾遺ノ哥ニ和琴ヲヨメル、カツラノ緒トヨメルヲ、  
経信卿桂ト心エテ、サルコトヤハアルト難シテ侍ケルヲ、撰  
者通俊卿ハ、是ハ葛絃ヲヨメリ、桂ニハアラストノヘタリ、  
仮名詞ハアシウヨマル、アヤマチオホク出マウテクルコトニ  
候、俊頼朝臣カ、クチヲシヤクモキカクレニスムタツモトヨ

ミテ侍ヲ、基俊ハ鶴ト心エテ、ツル雲井ニカクルト申コトナシト難シテ侍ヲ、是ハ葉公龍ヲミムトネカヒタルニ、アマリニ其志フカクシテ絵ニカキテハミケルニ、マコトノ龍クタリテ家ノ棟梁ノアヒタワタカマレル事ヲヨメルナリトノヘケレハ、基俊閉口云々

又雅親ト申モノ恋哥ニ、恋ワヒテオツル涙ノ玉ナラハ千ハコノカスニアマリヤハセム、基俊判者ニテ、此チハコ毛詩ノ千箱ト云事歟、其ハ箱ニハアラス、ソハ千箱トテ車ト云コト也、ト難侍ケルニ、此哥ハ毛詩ノ文ニハアラス、日本紀ノ珠滿千箱ト申コトヲヨミテ侍ナリ、和哥ニハスコシタヨリ侍歟、トノヘ侍ケリ、雅親放光云々、如此ノアヤマリ尤用意スヘキヨ也<sup>⑤</sup>先達ノイマシメニ候

## 日本紀第六

活目入彦五十狹茅天皇

垂仁天皇

## 日本紀第七

大足彦忍別天皇

景行天皇

十七年春三月幸子湯縣ニシテ丹裳ノ小野ニ遊タマフ、時二東ノカタヲミソナハシテ左右イフテノタマハク、コノ国ハナヲク日ノ出カタニムケリ、カルカユヘニソノクニ<sup>(マ)</sup>ミヲナツケテ日向トイフ、コノ日ニ野中ノ大石ニ涉マシテ京都ヲシノヒタウヒテウタ

<sup>世</sup>波辞積豫辞和藝幣能伽多由区毛位多知暮夜摩苔波区珥能摩保羅摩多<sup>ニ</sup>儺豆久阿烏伽积夜摩許葦例屢夜摩苔之于屢破試異能知能摩曾祁務比苔破多<sup>ニ</sup>泚許葦幣遇利能夜摩能志邏伽之延塢于受珥左勢許能固

ハシキヨシ ワキヘノカタユ クモキタチクレ ヤマトハクニノマホラハ タ、ナツク アヲカキヤマコモレル ヤマトシウルハシ イノチノ マソケムヒハ<sup>(マ)</sup> タ、モコモ ヘクリノヤマノ シラカシエヲ ウスニサセ コノコ  
顯昭法師注云、ハシメノ句ニハシキヨシヲハ、宇山喜撰法師カ和哥式ニ、八十八物ノ異名シルシ申タルナカニ、女ヲハ、ハシケヤシト申テ侍リ、但、顯昭コレヲ案侍ニ、先日本紀ニ

ハハシキヨシトカ、レト侍<sup>(ママ)</sup>ヲ、イカニソムキテ何文ヲ本牒トシテ、ハシケヤシトハカキテ侍ソ、又ヲトコヲハ、イハナヒクトイフ、女ヲハ、ハシケヤシトイフトマウセル、又ナニヨリ出侍コトソ、共ニミナオホツカナシ、此紀ニハ、男子<sup>ラマ</sup>ヲ、女人<sup>タラ</sup>ヲ、又俊頼カ無名抄ニハ、女ヲハハシケヤシトテ、男子<sup>ヤシ</sup>不注、喜撰カ式ヲウツセルカ、仲実カ綺語抄ニハ、男<sup>ヤシ</sup>ヲ、女<sup>ハシケ</sup>ヲ、但、男喜撰ニタカヘリ、以上トモニ日本紀ノ公望私記等ニ不見歟、清輔奥義抄、綺語抄ニ同、共ニ男女ノ異名トミエス侍キ、其證トミユル万葉哥等アマタ注出テ候シカト、皆タ、ノ詞トミエ侍ニ、ハシキヨシ、ハシケヤシ、ハシケヨシ、或ハ、ハシキ、皆物ヲホメタル心詞也、ヲシエヤシ、ヨシエヤシ、ヲシエヤシエヤ、皆物ヲヨシソハナト申詞トミエタリ、両詞万葉如此

<sup>(19)</sup>今ノ日本紀哥モ女ノ異名トミエス、ハシキヨシワキヘノカタユ、トヨメルハ、ワカイヘヲヨシミシタル心トミエテハヘリ、ワキヘハワカイヘナリ、カタユハカタヨリナリ、由ハヨリノ訓ヲモチキテ侍歟、日本紀、万葉集トモニ此両詞多モチキテ侍、催馬楽ニ我家ヲワイヘムトウタフハ、コノ本説ニ依侍也、資賢禪門ニコノ子細委ナラヒテ連哥時高名仕テ候キ、凡此長

哥ノ大意ハ、ワキヘノカタユ、ワカイヘノカタヨリ、クモキヲタチクレハ、ヤマトハ国名マホラハ、師説イハク、鳥ノワキノシタノケヲ、保羅<sup>ホ</sup>摩<sup>ロ</sup>トスル也、摩、謂真実也、云心ハトリノワキノハ如ク掩藏之内也、案奥区也、今俗謂保呂羽説也、タ、ナツクアラカキヤマ、注云、青山並立之義也、万葉十一云、田定名付青垣山ノヘタ、レハシハ君ニコト、ハスカ<sup>(立)</sup>モ、此日本紀長哥ヲヲヘル歟、タ、ナツク、タツナツクハ、タチツテト同五音故歟、私云、タ、ミコモヘクリノ山ノ、倍々安留之、コハ重レル義也、大和国ニアリ、云心ハ、諸山中ニ平群山ヲサスハ、寿命平遠歴代而来也、白カシハ祝ニヨスル、義ハ波山ニモヨセ、ウルハシキカサリ馬ノ唐鞍ノ尻ニサスモ祝ノ義也、此詞祝久也、マンケム人ハ、私云、マシケム人也

十八年秋七月筑紫後国ノ御木ニ至テ高田ノ行宮ニキル、時ニタフレタル樹アル、長サ九百七十丈、百寮其木ヲフムテカヨフ、時人ウタテイハク

阿佐志毛能<sup>廿四</sup>游概能<sup>廿四</sup>佐<sup>廿四</sup>鳥<sup>廿四</sup>摩<sup>廿四</sup>志<sup>廿四</sup>魔<sup>廿四</sup>幣<sup>廿四</sup>菟<sup>廿四</sup>著<sup>廿四</sup>游<sup>廿四</sup>伊<sup>廿四</sup>和<sup>廿四</sup>哆<sup>廿四</sup>羅<sup>廿四</sup>季<sup>廿四</sup>墓<sup>廿四</sup>游<sup>廿四</sup>開<sup>廿四</sup>能<sup>廿四</sup>佐<sup>廿四</sup>鳥<sup>廿四</sup>摩<sup>廿四</sup>志<sup>廿四</sup> 烏<sup>廿四</sup>摩<sup>廿四</sup>志<sup>廿四</sup>

アサシモノ ミケノサヲハシ マヘツキミ イワタラスモ

ミケノサヲハシ

顯昭法師注云、ミケハ所ノ名、アサ霜ノケキユルニヨスルカ、  
師説、アサ霜ハ消ヤスキナリ、湫概トヨマムトスル發語也、  
サヲハシトハ、ヒトツハシナレハイフ、イワタラシモハ、エ  
ワタラシトヨメル歟、同五音アイウエヲ、五音同歟、又古哥  
ニハヨロツノコトハニモ、イトイフ詞ヲツ、クレハ、イワタ  
リ、イユクナトヨミタリ

日本武尊上総ヨリ陸奥国ニイリテ、エヒスノサカヒニイタル、  
賊<sup>ヒトコトノカニママ</sup> 首ハルカニ王船ヲノソミテ其威勢ヲオソレテ、カツヘカ  
ラヌ事ヲ知テ弓矢ヲステ、君ノスカタノ人ニスクレ給ヘルハ、  
モシコレ神ニマスルカ、姓名ヲトヒタテマツルニ、王コタヘテ  
イハク、我ハコレアラ人神ノ子也、トノタマフニ、エヒスヲ  
ソレテモヲカ、ケテキシニツケテ<sup>ママ、脱アル也</sup>、ソノツミヲユルシテソ、首  
帥ヲ身ニシタカヘシメテ、エヒスシテタヒラキヌ、常陸ヲヘテ  
甲斐国酒折宮ニキルトキ燈ヲアケテミヲシス、コノヨウタヨミ  
シテ侍者ニトヒテイハク

<sup>廿五</sup> 珥比麻利菟玖波塙須擬氏異玖用加祢菟流

ニヒハリノ ツクハヲスキテ イクヨカネツル

モロノノサフヲフモノコトタフルコトアタハス、時ニ燈ヲト

ルモノ有テ王哥ノスエヲツケテイハク

<sup>廿五</sup> 伽餓奈倍氏用珥波虛ニ能用比珥波苔塙伽塙

カ、ナヘテ ヨニハコ、ノヨ ヒニハトオカヲ

スナハチトモシ人ノ聞ヲホメ〔ア〕ツク賞ス

顯昭法師注云、ニヒハリハ、アタシクヤトヲカリナトスルコ  
ト也、アタラシコトヲハニヒトイフ、ツクハネトハ常陸国ニ  
筑波ノ峯アレハ、カノツクハヲスキテイクヨカネヌルトイヘ  
リ、返シハ、カ、ナヘテハ、心ヲナラヘテカソフルニ、夜ハ  
コ、ノヨ、ヒハ十ヲカトコタヘタリ

是<sup>20</sup>ハ日本紀ノ連哥也

於是ミコトエヒスコトノク伏シテ、信乃国コシノ国スコフル  
シタカハトモ<sup>ママ</sup>、甲斐ヨリ武蔵上野ヲヘテ、ニシ碓日坂イタル、  
ミコト弟橘媛ヲカヘリミルコ、ロアルコトニ、ウスヒノミネニ  
ノホリテ東南ニソソミテ、ミタヒナケキテイハク、アカ妻ハヤ、  
孀、此云菟摩、<sup>故</sup>攻山東諸国ヲナツケテ曰吾孀国也、乃至昔日本  
武ノ尊向東之歳、尾津ノ浜ニマ<sup>ママ</sup>ト、マリテ而進食、是時一劔ヲ  
トキテ松下ニラク、遂ニ忘テサリイマシキ、今此劔ニイタリテ  
ナヲアリ、故哥曰

<sup>廿六</sup> 塙波利珥多陀珥霧伽幣流比苔菟麻菟阿波例比等菟麻菟菟比

苔珥阿利勢麻岐農岐勢麻之塙多知波開摩之塙

弘安七年春令詔書心性房了

ウハリニ タ、ニムカヘル ヒトツマツ 人ニアリセハ キ

寂惠

ヌキセマシヲ タチハケマシヲ

正慶元年仲冬十有余日以右本書写校合畢

顯昭法師注云、初二句ノウハリニタ、ニムカヘルヒトツマツ

暹阿(伊カ)

ハ、尾長(マヤ)ヘコエシカト、宮簀媛カイヘ、入ヌコ、口也、ウハ

リ、オハリハ同五音也、前二略スル詞ニイハク、日本武尊サ

(以下書名未詳断簡五丁省略)

ラニ尾張ヘ帰テ、即尾張氏カ女宮簀媛ヲ娶テヒサシクト、マ

テ、月ヲコエス(ヌ)ニコ、二近江ノイフキノ山ニ荒神アリト聞テ、

(卷末、小杉楹邨識語)

スナハチタチヲトキテ、ミヤスヒメカニ家ニヲキテカチヨリ

右仮名日本紀二帖柏木政矩珍藏ス、蓋曾テ一古刹ニ得ル所ナリ

出マス、イフキノ山ニイタリテ山神大地(地)ニナリテミチニアタ

ト云(藤シ朱)、原本所謂草子綴ニシテ厚漉杉原紙一枚両面ニ筆ヲ下セリ、

レリ、ナヲ心ヲウシナヒテエ、ルカ如シ、山下ノ泉ノホトリ

其古拙ノ風致実ニイハム方ナシ、偶借覽ノ余暇一書生ニ影写セ

ニソノ水ヲノミテサメヌ、カルカ故ニ、ソノイツミヲ名ツケ

シメテ博古ノ備考ニ充ツルモノナリ

テ居醒ノ泉トナツクト云ミ

明治十年一月八日 小杉楹邨「楹ノ村」(朱印似書)

### 日本紀第八

(注)

足仲彦天皇

仲哀天皇

(1) 底本前行と同じ字下げをする。今従わず。

本云

を補入。但、書紀原文にはなし。

(2) 「マタ」の次に「天照大神ノニハヒキコシメサントス

ル時ニスナハチヒソカニニワヒノミヤニクソマル、又」

(3) 「稲田宮主事」<sup>ミヤシ</sup>と頭書注記あり。

(4) 「先哥」と頭書注記あり。

(5) 「次哥」と頭書注記あり。

(6) 底本改行せず。私に改行する。

(7) 「サシスセソ、五字」と頭書注記あり。

(8) サンズイの不明な字。

(9) 「兼文案之、世俗之字波奈利、固奈弥ト謂此詞歟、宇波奈利ハ後妻也、固奈弥ハ前妻也」と頭書。

(10) 「ナニヌネノ」と頭書。(二箇所共)

(11) 「カキクケコ」と頭書。

(12) 底本改行せず。私に改行字上げる。

(13) 底本改行せず。私に改行する。

(14) 底本改行、字上げる。従わず追込む。

(15) 底本改行せず。私に改行する。

(16) 底本字上げせず。私に字上げる。

(17) 底本改行せず。私に改行字上げる。

(18) 底本字上げせず。私に字上げる。

(19) 底本改行字上げる。今従わず。

(20) 「連哥ノ始事」と頭書注記あり。

〔付記〕

翻刻を許可された京都大学文学部文学科図書室に深甚の謝意を表する。